

国際ビジネス研究学会

第 22 回全国大会統一論題

国際ビジネスの新機軸

－新しい市場創造のあり方を求めて－

東西冷戦の終結以来、様々な分野で「グローバリゼーション」を用いて、世界があたかも一つの形を成しているかのように言い表すことに慣れてきているといっても過言ではない。

政治においてアメリカの相対的支配力は低下し、宗教においてもキリスト教やユダヤ教に対してイスラム教の動きが世界的脅威になっている。

ビジネスの世界でも、多国籍企業に代表された冷戦下の時代から冷戦後のグローバル企業へと大きく変わってきているが、その一方でBRICSやVISTAといわれる新興国生まれの企業、ボーン・グローバル企業と呼ばれる「起業の段階から世界を意識した小さなグローバル企業」など、これまで等閑視されてきた新しいタイプの企業がある。

一方、流通業、サービス業、観光業などこれまで先進国以外では注目されてこなかった新たな産業が成長しているのも注目される。

1980年代、M. E. Porter は産業をグローバル産業とマルチ・ドメスティック産業に分け、グローバル産業は世界化できるがマルチ・ドメスティック産業は国内にとどまり大きな成長は望めないといったが、特に1995年以降はポーターの予測と違って流通やサービス、観光業の伸びが大きくなっている。

今大会では、巨大製造企業だけでなく、これまで比較的扱われなかった企業、産業、地域（国）にも光をあて、ビジネスの思考性、戦略、組織、資源、環境の変化とイノベーションを、様々な視点から論じられることを期待したい。

第 22 回全国大会実行委員会

実行委員長 嶋 正

(日本大学商学部)